



# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名【におい体験キット】におい物質:フェニル酢酸

化学式 :ポリエチレングリコール(99%以上)H(OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>)<sub>n</sub>OH

フェニル酢酸(1%以下)C<sub>8</sub>H<sub>8</sub>O<sub>2</sub>

製造者および供給者	大和サービス株式会社 測定事業部 〒424-8648 静岡県静岡市清水区中之郷 3 丁目 6 番 1 号 TEL:054-348-4185 FAX:054-347-1340
緊急連絡電話番号	測定事業部 営業推進室 (清水駐在)054-348-4185、 (東京駐在)042-773-3571
推奨用途及び使用上の制限	異臭のにおいを体験するために使用

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物質又は混合物の分類

GHS分類基準に該当しない。

絵表示

なし

注意喚起語

なし

危険有害性情報

GHS分類基準に該当しない。

注意書き-(安全対策)

・ 非該当

注意書き-(応急措置)

・ 非該当

注意書き-(保管)

・ 非該当

注意書き-(廃棄)

・ 非該当

その他

ほかの危険有害性 情報なし

## 3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物 混合物質

化学名	重量パーセント	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS 番号
フェニル酢酸	1%以下	3-1713	4-(4)-492	103-82-2
ポリエチレングリコール	99%以上	(7)-129	-	25322-68-3

不純物または安定化添加剤 非該当

## 4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、数分間目を閉じて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

#### 応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

水スプレー(水噴霧)、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、泡、粉末消火剤、砂

### 使ってはならない消火剤

利用可能な情報はない

### 特有の消火方法

利用可能な情報はない

### 火災時の特有危険有害性

利用可能な情報はない

### 消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

### 環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

### 回収、中和

利用可能な情報はない

### 二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

#### 注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 安全取扱注意事項

静電気放電(有機物の蒸気を引火させうる)を避けるために必要な措置をとる。個人用保護具を着用すること。

### 保管

#### 安全な保管条件

保管条件 直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

安全な容器包装材料 ガラス

混触禁止物質 強酸化剤

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

### ばく露限界

この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物含有していない。

### 保護具

呼吸器用保護具 保護マスク  
 手の保護具 保護手袋  
 眼の保護具 側面遮断する保護眼鏡(もしくはゴーグル)を着用すること。  
 皮膚及び身体の保護具 保護長靴、長袖作業衣

適切な衛生対策  
 産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 形状

色 無色  
 濁度 澄明  
 性状 液体  
 臭い 特異臭(臭)  
 引火点 218 ° C

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

安定性 推奨保管条件下で安定。  
 反応性 データなし

### 危険有害反応可能性

強酸化剤と接触すると発火の危険性がある。

### 避けるべき条件

高温と直射日光、熱、炎、火花、静電気、スパーク

### 混触危険物質

強酸化剤

### 危険有害な分解生成物

一酸化炭素(CO), 二酸化炭素(CO2)

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

化学名	経口 LD50	経皮 LD50	吸入 LC50
ポリエチレングリコール	N/A	> 20 mL/kg ( Rabbit )	N/A

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 データなし  
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 データなし  
 呼吸器感作性又は皮膚感作性 データなし  
 生殖細胞変異原性 データなし  
 発がん性 データなし  
 生殖毒性 データなし  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) データなし  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) データなし  
 吸引性呼吸器有害性 データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性 利用可能な情報はない

その他のデータ データなし

残留性・分解性 分解度:56 % by BOD (経産省既存化学物質安全性点検)  
 生体蓄積性 利用可能な情報はない  
 土壤中の移動性 利用可能な情報はない  
 オゾン層への有害性移動性 利用可能な情報はない

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

## 汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

## 14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)	規制されていない。
国連番号	-
品名	
国連分類	
副次危険性	
容器等級	
海洋汚染物質	非該当
IMDG(海上)	規制されていない。
国連番号	-
品名	
国連分類	
副次危険性	
容器等級	
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78 や IBC コードに則った バルクの輸送	利用可能な情報はない
IATA(航空)	規制されていない。
国連番号	-
品名	
国連分類	
副次危険性	
容器等級	
環境有害物質	非該当

## 15. 適用法令

### 国際インベントリー

EINECS/ELINCS	収載
TSCA	収載

### 国内法規

消防法	危険物第四類 第四石油類 危険等級Ⅲ 水溶性
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
航空法	非該当
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質 Z類物質
PRTR 法	非該当
輸出貿易管理令	非該当

## 16. その他の情報

### 引用文献および参照ホームページ等

NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構  
<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>  
 IATA 危険物規則書  
 RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances  
 中央労働災害防止協会 GHS モデル SDS 情報  
 有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会講談社サイエンティフィック  
 化学大辞典共立出版  
 等

#### 免責事項

この SDS は JIS Z 7253:2012 に準拠しております。記載内容は通常取扱を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。また、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取扱いには十分ご注意ください。

GHS 分類は JIS Z7252(2010)に準拠している。\*JIS: 日本工業規格

以上